

幹事会 必要となる取り組み	地区ワークショップ意見	アンケート意見
・家庭、地域、学校の連携 ・地域を支えるリーダーの育成 ・学校や地域での教育の一番根っことなる家庭教育に対する支援が必要 ・子育て充実	・現役世代への負担が大きくなる中、子育てへの支援も充分ではないので手厚い支援をしてもらいたい。 ・結の心を宿す子を育てるなら学校をなくさず、地域とともに育てることが必要。 ・みんなで子どもを守る環境を整えていくとよい。 ・今の課題は核家族。昔はおじいちゃん、おばあちゃんが面倒を見てくれていた。 ・私の娘（20代）は、1才児の子育て中で、大野で子育てがしたいと言っている。家族のようなあたたかい結の心を感じられる大野であってほしい。	・もうちょっと子どもを育てやすく産みやすくして、子育てに対する対策を向上してほしい。 ・子どもが遊べる施設が必要（特に屋内施設）。 ・子育ての充実化。 ・安心して子育てができるような市にしたい。
・家庭、地域、学校の連携 ・地域を支えるリーダーの育成 ・学校や地域での教育の一番根っことなる家庭教育に対する支援が必要	・小中学校の統合には賛成。社会の中の一人としての協調性がなければ大人の社会へは出ていけない。 ・結の心を宿す子を育てるなら学校をなくさず、地域とともに育てることが必要。 ・大野は人が育っていないのでは。若い人たちが参画する環境づくりが肝心。 ・学校は地域コミュニティの維持のため残すことを望む。	・子ども達に未来の大野を築く教育をさせてあげてほしい。
・家庭、地域、学校の連携 ・高校の専門課程を存続させていくことが必要	・小中学校を早く統合してほしい。先生も支援しやすい体制となるのでは。人数が少なすぎて不安。 ・学校は地域コミュニティの維持のため残すことを望む。	・小学・中学（高校）で日本でここでき受けられないような特化した教育を進め、それを県内の大学につなげ、つながりのある企業誘致へ。子どものために親は動く時代だと思う。まずは、人を魅了する教育の設備を。 ・子ども達に未来の大野を築く教育をさせてあげてほしい。 ・勉強できるところが少ないので増やしてほしい。
・いじめ、不登校、虐待防止に対する地域支援	・いじめ、不登校ゼロの学校を強力に目指し、全国から児童、生徒を招き入れていくとよい。 ・バスの通学がしっかりできれば、安心して田舎でも住んでいられる。 ・気がかりのある子ども（家庭）に対し、相談できる機関、病院へスムーズにつながられるよう、市が取りまとめた体制づくりを。いろいろな機関の連携協を。 ・不登校、引きこもりについて、学校と連携して相談に乗ってくれる場所の確立を。	・子ども達が安心して学校に通える環境を維持し、できれば大学生活まで大野でいけるような学びの場が増えてほしい。

幹事会 必要となる取り組み	地区ワークショップ意見	アンケート意見
・世代間交流、子ども食堂、地域の人が気軽に集える場所づくり	・赤ちゃんから高齢者の方ひとりひとりが主役のまちづくりを求める。 ・メジャーでないスポーツの体験会を開催してほしい。 ・学校再編が進み、自分たちの地域に学校がない状況になっても活気あるスポーツ行事を行うためにはどうするとよいか。	・スポーツ等でがんばっている子のために支援してほしい。 ・高齢者自身も周りの方の支援をいただきながら、自ら健康で暮らして行けるための努力も大切だと思う。 ・高齢者が元気で過ごせる期間を長くする為の対策。
・世代間交流、子ども食堂、地域の人が気軽に集える場所づくり ・かかりつけ医としての機能の維持	・子どもの医療費の無料化など福祉の充実。 ・学校もない、病院もないとなると安心して子どもを産み育てることができない。 ・地域長寿について、医師の高齢化や後継者がいないという事で無床診療所が増えている。高齢社会には身近な入院施設が必要。	・住み続けるにあたって不安なことは、入院できる病院が少ないということ。患者の年齢関係なく真剣に向き合ってくれるドクターを呼び寄せてほしい。 ・住環境としては医療機関の不足が気になる。 ・若い世代をよぶためには産科は絶対必要だと思う。ただでさえ不便な場所なのに、子どもを安心して生める環境がないのは大問題だと思う。 ・高齢者だけでなく、コミュニティにおける役割を意識できることで、健康（身体・精神）になれる。 ・健康のまちとしてつくり上げるとよい。 ・人と人がつながって協力する、みんなが「結」の心でつながっているような所にしたい。
・権利擁護と地域のネットワークの連携 ・高齢者の力を発揮できる取り組み	・障害者との心のつながりが足りない気がする。障害者といっても身体障害者だけでなく発達障害や精神障害など、見た目では分からない障害もあるので、障害への理解が足りない。 ・高齢化が進んでいるのにその様な方への施策が少ないように感じる。お年寄りの方にも応援してもらいたい。新しい方が来られるということより、今いる方が出ていかないということも大事ではないか。	・高齢者が少しでも長く自覚し自立出来るよう生活習慣予防（食事・運動・病気になりにくい）、詐欺との関わり方、高齢者の今の医療費などのお話を近くの集会所などで聞ける機会を作してほしい。 ・高齢者が増える大野で高齢者のサポートや孤独を感じさせない人と接触するコミュニティーツールがあるとよい。 ・高齢者が多くなってきているので、もっと高齢者の住みやすい環境にするとよい。 ・高齢者に対する配慮を。障害者に対する配慮を。

幹事会 必要となる取り組み	地区ワークショップ意見	アンケート意見
・子育て充実による職場環境の改善	・未来を担う子どもたちのため、もっと住みやすいまち、働きやすいまちにしてほしい。 ・組織に所属して働くことが普通となっているが、創業するという手段もあるという事を学ぶ場があってもよいのでは。 ・若い方が働きたいと思える職、環境を整えることができるか。地元に残る人、又は戻って来られる方が増えるような魅力の創出が必要。 ・産業団地への企業誘致について、広い面積があるが、売却できるのか。日本の経済を考えてみれば不利ではないか。 ・若い方が農業という仕事をやってみたいと思ってもらえるよう、経済的な保証もなくてはならないし、生活の基盤となる仕事としての農業が成立する状態が必要。	・地元の人だけでなく、これから若い世代が働くことができる企業の誘致をしてもらいたい。コストコやアウトレットモールなど、県外企画や企業が入ってくる大野市になってほしい。 ・未来の子どもたちへ豊かな自然を残していくことも大切だと思いますが、もう少し商業施設を増やしてほしい。 ・企業が少ないため企業を誘致する。大野のような田舎は世界中どこにでもあって、大野に住みたくなる強い理由がほしい。 ・就職先としての産業（会社等）がないため、優秀な人材が外部に出る。大野の地元で就職できる場所である企業誘致、産業育成が急務。 ・安心して暮らせるだけの給与をもらえる仕事が必要。特に男性。農業にパートで行っているが、とても安い給料で重労働。若い人が入ってこない。男性はこの給料では家族を養えないから余計に。
・エコグリーンツーリズムの整備 ・農地など周辺部の観光資源の掘り起こしと周遊の促進	・何かに特化したまちづくり、ブランド開発を行う。越前おおのブランドをもっと見つけて発信してほしい。 ・道の駅で大野の里芋を使用した加工品をどんどんPRするとよい。 ・農村山林環境を守りながら豊かな田園集落を守っていきたいと考えているが、崩れつつある。 ・観光客向けにSNS、ホームページでのアピールをもっとしてほしい。 ・大野市外への魅力ある情報発信は、ホームページでは十分ではない。テレビで発信するのが一番であるので、長い目でみての発信をお願いしたい。 ・大野市の観光人口が増えているが、短期滞在型が多い。ホテルの誘致とトイレの充実を。	・大野市の魅力となる、風景や財産を守り、まちづくりを行うことが重要。まちなかの観光の充実をさせるとともに、百名山である荒島岳の観光スポットを連携させる。道の駅を中心とした観光開発に取り組み、第2の玄関となる事を重要視してほしい。 ・目玉となるような商品の開発と積極的なPRが必要。
・担い手づくり ・人材の確保と育成	・特産品づくりの後継者の確保が不安。農業している人がだんだん高齢化してくるので将来どうなるか不安。 ・農地を維持確保していくことを前提に、生きていける農業のあり方を追求していくべき。 ・杉の価格が下がり、切るにもお金がかかり、売れない。 ・大野市の観光人口が増えているが、短期滞在型が多い。ホテルの誘致とトイレの充実を。	・農村部にも豊かな土地や緑がたくさんあるのに何も活用できてない。若い世代が不足している今、地域づくり活動や保全活動は集落の中高齢者に逆に負担をかけているのではないか。 ・未来の子どもたちへ豊かな自然を残していくことも大切だと思いますが、もう少し商業施設を増やしてほしい。 ・宿泊施設が少ないので不便である。観光客に対してものの言い方がぶっきらぼうで、戸惑う人たちがいた。柔らかく接してもらえたらもっと大野が好きになってもらえると思う。

幹事会 必要となる取り組み	地区ワークショップ意見	アンケート意見
・中部縦貫自動車道は満足度が 高いが、国道158号は目に見え た進捗がないので、整備が必要	・市民としては158号のバイパスを早く完成させてほしい。福井市へ働きに出る人が多く、計石辺りで事故が起こると通行できなくなる。 ・仕事は福井市で行い、住むのは静かで落ち着いた大野ですというのはいかがでしょうか。 ・歩道が駐車場優先で傾斜がある。自転車は歩道を走れるようにしてほしい。 ・道路の歩道の線、中央線が消えているところが多い。スクールゾーンの表示も薄くなっている。おざなりになっていると感じるので改善してほしい。 ・道路と歩道の境の雑草がひどく、歩道の役目を果たしておらず、景観も悪い。 ・水害に備えて赤根川の改修を望む。 ・上水道、行政が一本化して運営、管理してほしい。料金の統一化。下水道の整備が遅れているように思う。 ・住居や納屋などが空き家になって自然倒壊し、放置されたものがそのまま鳥獣の住処になっており、生活の不安になっている。 ・若い世代が市外へ流出しないよう、空き家を利用して市街地に住むなど、市内へ移って住む場合も支援してほしい。 ・除雪はしっかりしてほしい。夕方の除雪が必要。家に帰るまでにスリップして帰れないときがある。 ・融雪の水が道路を川にしている箇所が多い。市街地の流雪溝の水量について、流れない側溝が多い。	・若い人が大野に残りたくても、就職先の選択肢が少ない為、結局市外や県外に行ってしまう。よく耳にするのは「冬の事を考えたら、福井市へ移住してしまう」ということ。大野市は除雪作業も早く丁寧だと思うが、若い人が少しの雪かきも面倒だと考える人が多い為かもしれない。 ・福井と違って除雪が行き届いていて冬でも意外と楽。 ・空き家を有効活用する。 ・通勤道となると158号線の需要が多く、全線開通を一刻も早く望まれる。県都への通勤圏地域として確立されれば、転出入口も減少することが期待される。 ・買い物、通院、催し物などに気軽に行けるようまちなかバス等充実してほしい。 ・JR越美北線の本数が少なく、快速もないため、鉄道での通勤がとても不便。 ・大野市は交通の便が悪く、車にのれない私たちにとって足となるのは電車とバスだけ。バスや電車を1時間に1本は出すようにしてほしい。 ・鉄道はあるが、車以外の観光客や故郷訪問者の足としては不便で訪問しづらい ・高齢者の交通安全のため、公共交通の利用を促す
・景観を維持していく、道路の草の管理などは、自助を共助で補えるのでは ・ごみや雑草を市民みんなで取り除く ・上下水道の整備	・湧水が大野の宝であることを忘れてはならない。地下水の保全活動に支援してほしい。 ・中山間地の役割は、多面的機能をはじめ豊かな環境で住みやすい山村集落の形成であると思う。中山間地のあるべき姿を明記すべき。抜本的な支援を。 ・自然が良くないところには産業もこない。何を最優先するかを第六次に反映させてもらいたい。自然を第一に考えないと次世代につなぐ持続可能な社会の形成はできないと思う。 ・まちなかの景観だけでなく、そこにアクセスする景観（ごみ、雑草）にも目を向けてもらいたい。	・おいしい水、豊かな大自然、大野の魅力を未来へつないでいってほしい。 ・水と自然。自然環境を大切にする教育。生きもの、緑を多くする。ゴミを少なくし、きれいな大野市に。 ・地下水の保全。上下水道の普及。 ・住んでいる人たちの基本となる生活環境の維持・向上にも地道に取り組んでほしい。 ・大野の美しい自然をそのままの様で残してほしい。 ・皆が皆、環境を守り未来へつなげたいと思っている。 ・「環境」「自然」など「結」「名水（湧水）」を少し発展させ（SDGsもくみとりつつ）、気候変動、温暖化など地球規模で進行する環境破壊に対して大野市は大野市らしい取り組みを行っているとし市内外へ表明していくことはどうか。

幹事会 必要となる取り組み	地区ワークショップ意見	アンケート意見
・人づくりが重要 ・人づくりをした上で、その人たちが助け合うことが、まちづくりにつながる	・現役世代への負担が大きくなる中、子育てへの支援も充分ではないので手厚い支援をしてもらいたい。 ・結の心を宿す子を育てるなら学校をなくさず、地域とともに育てることが必要。 ・みんなで子どもを守れる環境を整えていくとよい。 ・今の課題は核家族。昔はおじいちゃん、おばあちゃんが面倒を見てくれた。 ・私の娘（20代）は、1才児の子育て中で、大野で子育てがしたいと言っている。家族のようなあたたかい結の心を感じられる大野であってほしい。	・地域をあげて何かする時に、リーダー的な存在は必要だと思う。育成の場も必要だと思う。物事別に、気軽に相談できる窓口があるとよい。 ・人と人がつながって協力する、みんなが「結」の心でつながっているような所にしたい。 ・福井の田舎は閉鎖的で暗いところが多いが、大野はとても人間味があって優しい人が多い。不便なところも多いが人間性の良さでカバーできるくらい素晴らしいと思う。
自助と共助 ・当事者意識が欠落している。自助が基本であって、自分ができることを少しでも行う。このことが共助につながる ・今の共助は区長さん頼みになっている。少しでも一人一人ができることを行うことが必要	・避難所の開設については民間の高い建物と協定を結んでどうか。 ・避難場所について、南小学校が公民館、文化会館へ避難することになっているが、避難場所までは遠く、高齢者も大変。車で行くにしても駐車場はないし、災害時に通行は難しいのでは。エキサイト広場へ避難すれば分散されて良いのでは。 ・和泉地区の消防団はOBを加えてもよいのでは。 ・これだけ消費者の安全がさげられているなか、犯罪が減らない。	・横断歩道では、必ず車が止まってくれる交通安全運動を行ってほしい。 ・防災、防犯対策における自助、公助、共助の考え方は高齢化社会における地域コミュニティにもつながる。 ・若い人に向けて消防団の活動を知ってもらう必要がある。
・権利擁護と地域のネットワークの連携 ・世代間交流、子ども食堂、地域の人が気軽に集える場所づくり	・一人暮らし高齢者宅の屋根雪下ろしが問題。高齢者にとっては、大変な負担となっている。人口減少、高齢化の現状に合わせ、若い方が帰ってこられるような地域にするにはどうすればよいかということ盛り込まなければならない。 ・近所に引きこもっている人が何人かいる。もっと行政が声かけしてもらえないか。 ・個別に出会いを求める場や機会が少ないので行政サポートで出会いの場を設けては。	・子ども・老人・障害者の生きやすいまちづくりが、全員の生活しやすいまちにつながるのではないかな。 ・障害児を預ける施設・スタッフを増やしてほしい。障害児も含めた子どもたちを安心して預けるところが充実していると大野から出る人も少ないし、Uターンする人も移住する人も増えるのではないかな。 ・生活に今困っている人を、どう支えていくか！どうまもっていけるか！
・参加しやすい生涯学習 ・生涯を通じて学び続ける環境 ・活動を継続できる環境づくり	・図書館の便が悪いので、カフェを併設してはどうか。 ・芸術、文化がまったくない。	・図書館の閉まる時間が早すぎる。勤め人はだれも平日借りれないし県立まで行かないと種類もないから不便。飲み物すらない。 ・文化芸術を楽しむ心の余裕のない人が多い。コンサートや美術等の楽しむ場がない。福井や県外に出ないと見られないし、楽しめない。 ・昔ながらの伝統などを伝えていく。

幹事会 必要となる取り組み	地区ワークショップ意見	アンケート意見
・地域の人たちで声かけをして、その人たちが関われる方法を探りながら取り組む	・市が行っている成果が伝わってこない。PRをうまく行ってほしい。市民まで届いていない。 ・市の活動の実態としてどのようなことをしているかという情報が流れてこないことが問題。努力しているが現状このような問題があるといった情報発信をしていただきたい。 ・市も県もパブリックコメントをしているが、一般には浸透していない。 ・情報化時代では行政はHPで発信していると言うが、高齢者はパソコンなどの活用が難しい。 ・経常収支率が厳しい状況で、大型公共事業をしないとイケないのか。徹底的な検証もなされていないし、してるとしても市民に伝わっていない。市民に市政に関心を持ってほしい。	・①行政（集落）単位の諸組織の統廃合あるいは再編の検討②何でも区長会に依頼するという現在の行政の体質改善（区長は行政の出先、あるいは下働きではないと思う）③区長手当の改善。 ・意見やお願いがあっても役所の何課へ申し出たらいのかわからない。役所に意見を聞く気があるのかどうかかわからない。
・今やっていること、昔からやっていることを継続して行う	・一人暮らし高齢者宅の屋根雪下ろしが問題。高齢者にとっては、大変な負担となっている。人口減少、高齢化の現状に合わせ、若い方が帰ってこられるような地域にするにはどうすればよいかということを盛り込まなければならない。 ・行政と市民のパートナーシップによる市政の運営が求められる。いかに「自分ごと」として考え、行動することができるか、行政はその場を提供できるか。前向きな議論と明確な方向性を。 ・地域と市が互いに理解しあうことが大事。 ・プランづくりの主体は市民。計画策定のプロセスが大切。 ・市民総参加と言っているが、行政サイドで淡々と進んでいるように感じる。 ・住民の意見を聞き、納得を得、合意を得られた上で進めるということをしてほしい。	・行財政改革による市の財務基盤の強化、盤石な財務による市内の地域振興を行う。振興は老若男女問わないイベントを開催。地域も活性化するし、市外から人が集まりやすくなる。 ・市職員も含めて「対人」の心が感じられない場合が多い。Uターン、Iターン、観光、移住。全て他府県で生活している、又は生活していた人を相手にする。接客や交通マナー向上において競争も向上心もないままでは、観光や移住政策は成り立たない。大野は人情味溢れる人が多いのに、その入口対応で損をしてしまうのは非常に勿体無い。 ・近隣自治体との連携は急務！特に勝山市。仲が悪いなどと首長や幹部の個人的な関係で決めてはいけない。
・現在どういった財政状況なのかを見える化する ・不安要素である借金を減らす ・解消するための数値的な目標を持つ	・市民が安心して暮らせるよう、財政的な安心感を市民に与えないと、市民が外に出ていき、税収が減っていく。議会で活発な議論を期待したい。 ・市税は総収入の5分の1。人口は減っていくので税収が増えることは考えられない。職員の中にも危機感がないことが一番心配。危機意識について職員の一体感を出すような取り組みを。 ・小中学校の統廃合、文化会館の新築など大きな施設を造らないといけないと思うが、財政が不安。 ・高望みせず、欲張らず、現実を受け入れ、つつましいまちづくり。	・人口3万人を切る事を基にまちづくりを考えれば、将来性の無いムダな施設を民間払い下げ又は閉鎖して、子どもの教育費に投資していただきたい。 ・統廃合などで新しい建物を建設するのではなく、耐震対策も済んでる建物を生かす。無駄な事・不要な物としないでほしい。 ・新しい箱物ばかりに手をつけず、今ある古いものをもっと生かす事！学校の統廃合にしても同じ、ゆっくり考えて皆で話し合ったほうがいい。